

令和3年度
大松小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを実現する子どもの育成

学力向上検討委員会構成

校長

印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して一生懸命取り組む児童が多い。どの学年も当該学年の学力を平均的に身に付けている。 ●量と測定や図形について、知識理解が十分でない。文章を読みとる力が弱く、長文問題に苦手意識をもっている。	基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。	①「学びなび」を活用し、板書・ノート指導を充実させる。 ②速音読を全学年実施する。 ③具体物进行操作させながら定義や意味・言葉などを繰り返し指導する。 ④習熟度に合わせたスキル学習を実施する。	①学びなびを活用し、サンプルで分かりやすい板書をする。③フラッシュカード等を活用する。④タブレットも活用した習熟度別学習を実施する。	・概ね身に付けることができているが、学力に個人差があるのが課題である。 ①学びなびを活用したノート指導や学級会指導のが充実。 ②速音読の活用が難しかった。 ③具体物やデジタル版フラッシュカードを使って定義や意味を繰り返し指導。 ④習熟度別のプリントの活用	・朝の活動内容(速音読を含めて)の見直し ・タブレットの効果的な活用 ・学習内容の教室掲示 ・授業法や教材活用についての研修の充実

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中や学級会で自分の考えを伝えることができる。 ●自分の意見に自信を持ち、根拠や理由を明らかにして文章や発言で表現することに課題がある。	①相手や目的を意識して、根拠や理由を明らかにしたり、自分の考えと友達の考えを比べたりしながら発言や文章で豊かに表現することができる。	①学習活動の中で、友達と意見を交流する活動(ペア活動等)を意図的に取り入れる。 ②自分の考えを文章に書く・表現する機会を意図的に設ける。 ③「学びなび」を活用させる。	①意見が分かれる発問を工夫する。②-1ふりかえりを書く時間を多く設定する。②-2箇条書きや短い言葉で書く活動を設定する。	・目的を意識した話し合いや根拠や理由を明らかにした発言ができるようになりつつある。 ①ペア・グループ活動で意見交流や話し合いを意図的に実施。 ②箇条書き・絵や図で自分の考えを書く活動を設定。作文の時間の設定。	・個別指導の時間を確保 ・ふり返りの時間を確保 ・話し合いの過程が分かる板書の工夫 ・学びなびの活用について検討

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や家庭学習に真面目に取り組む児童が多い。 ●進んで課題を見付けることに課題がある。	自ら課題を見付け、課題や自主学習に積極的に取り組み、自信をもつことができる。	①児童の主体的な体験や活動を取り入れた授業を展開する。 ②「家庭学習の手引き」を活用できるよう、適宜指導するとともに、学校便りや学年便りを通じて家庭との連携を大切にし、家庭学習の充実を図る。	①-1児童の意見や考えを肯定する。①-2目標に結び付けた授業を展開する。①-3成功体験が得られる活動の工夫。②学習の過程や成果を学年便りなどで発	・自ら課題を見つけることが十分ではない児童もいるが興味関心があることについて意欲的に取り組み自信をもつことができている。 ①コロナ感染対策を行いながら活動を工夫して実施。 ②自主学習に意欲的に取り組める。学年で「学習の手引き」を作成し活用。	・タブレット活用による活動の工夫 ・互いのノートを見合う機会を意図的に設定 ・豊かな語彙力を基にした教師の支援

令和3年度 学力向上ロードマップ

